

# Economic Indicators

定例経済指標レポート

指標名: 企業物価指数(2012年6月)

発表日2012年7月11日(水)

～国際商品市況の軟化を背景に弱い動き～

第一生命経済研究所 経済調査部  
担当 エコノミスト 星野 卓也  
TEL : 03-5221-4526

(単位: %)

		国内企業物価				国内企業物価 (連鎖指数)		輸出物価		輸入物価		
		前期比	前年比	最終財 (国内品) 前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比	
11	4月	0.8	1.8	0.1	0.4	0.8	2.0	2.1	▲2.8	5.3	7.0	
	5月	▲0.2	1.6	▲0.6	▲0.1	▲0.2	1.5	▲1.8	▲2.9	0.4	7.1	
	6月	0.0	1.9	▲0.1	▲0.1	0.0	1.8	▲0.6	▲2.3	▲1.7	8.0	
	7月	0.1	2.2	▲0.1	0.2	0.0	2.2	▲1.1	▲0.8	▲0.3	10.4	
	8月	▲0.1	2.2	▲0.1	0.1	0.0	2.1	▲1.6	▲0.7	▲1.9	10.9	
	9月	▲0.2	2.0	▲0.2	0.0	▲0.3	2.0	▲0.5	▲0.9	▲1.8	9.3	
	10月	▲0.6	1.3	▲0.4	▲1.0	▲0.5	1.1	▲1.0	▲1.3	▲0.6	10.2	
	11月	▲0.1	1.3	▲0.1	▲0.9	▲0.1	1.1	▲0.3	▲2.7	▲0.2	7.3	
	12月	0.0	0.8	▲0.2	▲1.4	▲0.1	0.6	▲0.3	▲3.9	0.9	5.7	
	12	1月	▲0.1	0.3	▲0.1	▲1.3	▲0.1	0.1	▲0.5	▲4.7	▲1.9	1.7
		2月	0.2	0.4	0.2	▲1.0	0.2	0.2	1.9	▲3.6	2.0	2.0
		3月	0.5	0.3	0.6	▲1.0	0.4	0.1	3.7	▲0.3	6.1	6.2
4月		0.1	▲0.4	▲0.3	▲1.4	0.0	▲0.7	▲0.6	▲2.9	0.4	1.3	
5月		▲0.5	▲0.7	▲0.4	▲1.2	▲0.5	▲1.0	▲2.4	▲3.6	▲2.8	▲2.0	
6月		▲0.6	▲1.3	▲0.4	▲1.5	▲0.5	▲1.5	▲1.3	▲4.3	▲2.7	▲3.1	

(注) 国内企業物価及び国内企業物価(連鎖指数)の前期比は夏季電力料金調整後の値。

(出所) 日本銀行「企業物価指数」

## ○国内企業物価は6月も弱い動きに

6月の国内企業物価指数は前年比▲1.3%とコンセンサス(同▲1.0%、レンジ:同▲1.3%～▲0.6%)を下回った。前月比では▲0.6%と2ヶ月連続の低下となった。国際商品市況の下落を背景に、国内企業物価は軟調な推移が続いている。

前月比の内訳をみると、マイナスに寄与したのは石油・石炭製品(前月比▲5.2%、同寄与度▲0.35%ポイント)、化学製品(前月比▲0.7%、同寄与度▲0.06%ポイント)、非鉄金属(前月比▲2.4%、同寄与度▲0.06%ポイント)、スクラップ類(前月比▲9.9%、同寄与度▲0.06%ポイント)、鉄鋼(前月比▲0.7%、同寄与度▲0.04%ポイント)など、プラスに寄与したのは電力・都市ガス・水道(前月比+1.6%、同寄与度+0.10%ポイント)などであった。

国際商品市況の下落を背景に、ガソリンやベンゼンといった石油精製品や、銅などの非鉄金属が前月比マイナスとなった。また、中国の需要鈍化を背景とした原材料価格の低下などを受けて、鉄鋼は9ヶ月連続の下落となっており、弱さが目立っている。

なお、今回より企業物価指数は2010年基準への改定が行われている。比較可能な4月までの値で前年比の数字を比較すると、情報通信機器や石油・石炭製品のリセット効果<sup>1</sup>がマイナスに働いており、2010年基準の下落幅が若干大きくなっている。ただ足元の数字に与えた影響は軽微であり、国内企業物価の趨勢に変化をもたらすような改定にはなっていない。

<sup>1</sup> 旧基準での高かった(低かった)指数水準が、新基準において100にリセットされることにより、騰落率の寄与度が変化する効果。

## ○国内の消費財価格は軟調

需要段階別指数（国内＋輸入）をみると、素原材料は前年比▲2.4%（前月比▲3.7%）、中間財は同▲1.6%（同▲0.8%）、最終財は同▲1.4%（同▲0.5%）となった。原油やガソリンといった石油関連製品を中心に、各需要段階において物価に下落圧力がかかっている。また、消費者物価と関連の深い最終消費財（国内品）をみると、ガソリン価格の下落などを背景に前月比▲0.5%と3ヶ月連続で下落した。こういったガソリン価格の軟化は、月末公表の6月の全国消費者物価に対しても下押し要因となる見込みだ。

## ○原油など資源価格の軟化により、輸入物価は前月比▲2.7%

輸入物価（円ベース）は前年比▲3.1%（前月比▲2.7%）となった。品目別にみると、原油や液化石油ガス、鉄鉱石などの資源価格が軟化した。輸出物価（円ベース）は前年比▲4.3%（前月比▲1.3%）となった。原材料価格の下落などにより、化学製品や金属・同製品などが5月から下落した。欧州債務問題などを背景とした国際商品市況の下落などにより、輸出入物価はともに軟調に推移している。

## ○徐々に上向いていく見込み

このように6月の国内企業物価は、石油・石炭製品や非鉄金属製品など幅広い品目の値下がりにより前月比で2ヶ月連続の低下となった。

今後に関しては、世界経済の持ち直しが見込まれる中、国際商品市況も徐々に下げ止まりに向かうことが予想される。こういった中、先行きの国内企業物価も徐々に上昇基調へと転換していくだろう。しかし足元においてもなお、海外経済指標には弱さが目立っており、景気回復感は乏しい。各国経済の持ち直しの遅れを背景に、国内企業物価も低位での推移が続く可能性を視野に入れておく必要がある。

